

はじめに

本プロジェクトは、昨年度からの継続で、時間的あるいは空間的に離れたところで生み出された、広い意味での「異文化」の作品が受容される際のプロセスとメカニズムを多面的に調査することを目的とする。昨年度に引き続き、新たにまた報告集をまとめられることを大変嬉しく思う次第である。

鴻野わか菜先生にはいつもながら貴重な論考を頂いた。また優秀な若手研究者の海田皓介氏、大塚萌氏からも、それぞれ英語史、現代日本文化翻訳という対照的な分野から意欲的な論文を受け取れた。須藤由佳氏の研究ノートは、日本語のオノマトペがどのように英独語に翻訳されているか 8000 例ほどの調査を行ったもので、単なる関連する対象の比較考察ではなく、翻訳というプロセスを経て融合的に関連する対象を比較考察することで、一層それぞれの対象の現状や本質が明らかになるという好例であった。より進んだ国際交流が求められるこの時代に、広く社会的に発信し、利用して貰うべき成果と考えたので、長いものだが全文を掲載することにした。

来年度から大学院人文社会科学研究科は改組となり、大学院人文公共学府となるが、研究センターと研究プロジェクトの体制は拡充されていく予定である。この研究プロジェクトもそれに合わせて息長く続けていくつもりであるが、大きな区切りとなるこの時期に、このように充実した成果を世に問えたことで、執筆者一同大きな責務を果たせた安堵感を感じている。今後一層研鑽を積み、この立ち位置からグローバル化の内実を問い、その実質化に寄与する研究を蓄積し続ける所存である。

2016 年 3 月 8 日

石井正人